

(第5期：2020、2021、2022年度)

2022年度沖縄大学外部評価委員会（第5期）議事録

日時：3月2日（木）18:00～19:30

場所：沖縄大学本館1階同窓会館

出席：越野泰成委員長、石原地江副委員長、神里みどり委員、田島繁委員、小磯誠委員、三輪大介委員

大学側：山代寛学長、黒木義成副学長、崔珉寧副学長、嘉数健悟教務部長、大城貴之学生部長、豊川明佳経法商学部長、喜屋武政勝人文学部長、新城正紀健康栄養学部長、名城健二現代沖縄研究科長、佐喜真実理事長、金城敬常務理事、金城直樹事務局長、山内昌也総務課長、（事務局：経営企画室 兼島徹）

<配付資料>

【資料1】自己点検・評価Ⅰ（2021年度事業の点検・評価）

【資料2】外部評価委員意見への対応策検討

【資料3】自己点検委員会・評価Ⅲ（2022年度における基本方針及び内部質保証の点検・評価）

【資料4】外部評価委員会規程新旧対照表

【資料5】教員採用試験合格者数一覧表（2015-2022年度）

【資料6】地域研究所の事業（2022年度）

【資料7】沖縄大学憲章、沖縄大学基本方針、沖縄大学内部質保証の方針と手続き

金城直樹事務局長の司会で配布資料の確認、委員及び大学側出席者の紹介の後に次第に沿って進行した。

1. 開会挨拶【山代寛学長】

- ・本日はお忙しいところ、本学にお越しいただき感謝している。新型コロナも落ち着きつつあり、新年度からはコロナ前の状態に戻し、アフターコロナに向けて稼働していく年度になる。
- ・本日は年に一度の委員会開催となるが、本学の内部質保証において委員の皆様からの意見を重視することが確認されている。新たな執行部で臨む最初の外部評価委員会となるが、本日も忌憚のないご意見をいただきたい。

2. 委員長挨拶【越野泰成委員長】

- ・新型コロナが落ち着きつつあり、今後はアフターコロナで通常の教育活動に戻っていくと思われる。しかし、すべてを以前と同じように戻すのではなく、3年間のコロナ禍で学んだ新たな教育を生かしながら進んでいきたい。本日の議論を通して沖縄大学に貢献できればと考えている。

3. 沖縄大学外部評価委員会規程改正について【説明：金城直樹事務局長】

- ・資料4にもとづき、沖縄大学外部評価委員会規程改正案について説明がなされた。
- ・第1条と第2条では、本学の「教育研究活動及び管理運営」や「中長期計画」について、外部評価

委員に意見を聴取すると定めていたが、「自己点検・評価」や「内部質保証」に沿った大学運営が全国の大学に求められる流れへと変化していることを受け、第1条と第2条を見直し、「自己点検・評価」や「内部質保証」について外部評価委員に意見を聴取する内容に改正を行いたい。

- ・昨年度開催された委員会でも本学の「自己点検・評価」の状況や「内部質保証体制」について説明・報告を行い、委員の皆様からご意見を頂いており、現状に沿った改正となる。
- ・第9条の改正は事務局部署の変更である（変更前：企画総務課⇒変更後：経営企画室）
- ・第1条と第2条、第9条以外の条項については、文言の修正等の改正となっており、内容を変更するものではない。

※以下、次第4～5について、越野委員長により進行がなされた。

4. 2022年度報告（自己点検・評価活動等の報告）【報告：山代寛学長】

- ・資料1により、執行部による2021年度事業の点検・評価にもとづいた各学科、各部署における対応策の検討状況について報告がなされた。
- ・資料2により、2021年度開催の外部評価委員会で委員の皆様からいただいたご意見への各学科、各部署の対応策の検討状況について報告がなされた。
- ・資料3により、執行部による沖縄大学基本方針および内部質保証体制の点検・評価について報告がなされた。

5. 意見交換

【質問：神里委員】

- ・履修相談室の成果についてどのように評価しているのか。
- ・履修相談室には教員を配置しているのか。

【回答：嘉数教務部長】

- ・履修相談室は半期で10単位未満の単位取得者を中心に調査してアプローチしている。1年次前期における10単位未満の学生は、2020年度105名、2021年度76名、2022年度69名となっている。前期中に履修相談室から連絡し、悩み事や出席状況等について聞き取りを行い、学生を励まし、モチベーションを上げる取り組みを行っている。履修相談室の職員が実施する面談における面談者数は毎年度30～40名程度で、2021年度に履修相談室からアプローチした学生のうち休学者は4名であったが、2022年度は0名、退学者は2020年度9名、2021年度8名、2022年度5名となっている。
- ・1年次には2020年度からアプローチを開始して学生の状況を注視しているが、2023年度に4年次になるので、4年間の取り組みの成果が見れるようになる。
- ・マンパワー等の問題で履修相談室が1名体制となっており、2年次、3年次へのアプローチはできていない。
- ・履修相談室には教員ではなく、専任職員を配置している。

【質問：三輪委員】

- ・昨年度の委員会では、自己点検・評価書等に「離島」という視点がないことが残念で、そのような観点から質問させていたが、大学に対応策を考えていただきうれしく思う。

- ・こども文化学科では、施設出身者や障がい学生の入学への取り組みの工夫がなされているとの記載があるが、どのようなことを実践しているのか教えていただきたい。

【回答：喜屋武人文学部長】

- ・聴覚障害学生が入学した際には、学生支援課のライティングサポート（ノートテイク）により、支援した事例がある。この学生は現在卒業しており、学童で勤務している。

【意見、質問：小磯委員】

- ・コロナが収束してきたとはいえ、まだまだ先が見えない中で、手探りでいろいろなことをやられてきていることに対して敬意を表したい。「大事なのは学生、学生あつての大学」との言葉が山代学長からあったが、これが基本になると思う。
- ・仲地礼亜さんが中日ドラゴンズにドラフト1位指名されたが、学内の雰囲気はどうか。
- ・大学と放送局は似ているように思う。大学は学生が集まらなければ存続できない、リスナーが聞いてくれないと放送局も成り立たない。そのためきめ細かいことをやっていく。不思議なもので、じり貧の時は全体に元気がないが、何か一つ社会的に注目されるようなことがあると、なぜか全体に推進力がでてくるように思う。大きな目玉、起爆剤のようなものが作れば、沖縄大学に興味、関心を持つ人も増えてくるように思う。
- ・記者会見を定期的に行うなど、マスコミをうまく活用していくことも効果的である。

【回答：山代学長】

- ・大城学生部長が長年監督をされてきたがその努力が実り、ドラフト指名につながった。「沖縄大学はやればできる」という雰囲気が醸成されているように思う。
- ・仲地さんに限らず、頑張っている学生は大勢いるので、そのような学生にスポットライトをあてていきたい。卒業式には嘉数昇賞や学長賞、学部長賞などを授与しているが、そのような機会を通して学生の取り組みを多くの方に知ってもらえればと考えている。

【意見：田島委員】

- ・資料1のp.10に「地域の課題に取り組む人材の育成」について記載があるが、真和志地区の自治会との連携についても是非ご検討いただきたい。昨年、沖縄国際大学の学生ボランティア団体から連携の打診を受け、地域活性化委員会を立ち上げた。高齢化が進む自治会の中で年末には清掃活動をやっていた。また、学生には自治会の研修にも参加いただき、若者の視点等を発表してもらおう機会もあった。若い力は素晴らしいと感じる。漫湖公園の桜祭りの実行委委員長を務めているが、2日間にわたって20名の冲国大の学生に運営協力をいただいた。

【回答：山代学長】

- ・大学としても包括連携協定を推進していく目標を掲げている。那覇市総合計画の審議委員会に参加しているが、そこでもSDGsを軸に地域の課題に大学が取り組んでほしいとの宿題もいただいている。経営企画室を窓口に関係について検討させていただきたい

【質問：石原委員】

- ・資料2のp.3に「問題発見演習」の記載があるが、どのようなことを行っているのか教えてほしい。

- ・資料3のp.3に「エコキャンパス」についての記載があり、雨水利用等行っていると思うが、それ以外に取り組んでいることがあれば教えてほしい。

【回答：嘉数教務部長】

- ・「問題発見演習」は初年次対象の科目となっており、「スタディスキル」「ソーシャルスキル」「キャリアデザイン」の3つの柱を中心に全学科共通で取り組んでいる。1年生前期には友達づくりや大学4年間を通してどのように学んでいくかなど取り組み、後期には各教員の専門領域に応じて学生のスタディスキルを高めていけるようにしている。
- ・1年次、2年次は、共通科目を通して学際的に学び、大学で専門教育を学んでいくための土台づくりの期間と位置付けている。

【回答：山代学長】

- ・エコキャンパスについては、桜井学長の頃に熱心に取り組みが推進されていたが、現在では全学的に取り組みを進める意識が薄れている。
- ・本日、協定校の台湾・東呉大学学長に訪問頂いたが、CO2排出ゼロを目指していることをはっきりとおっしゃっていた。
- ・「環境」については、「重要な課題」と位置付けているものの、全学的な取り組みに至っていないため、今後取り組みへの検討を進めたいと考えている。

【意見：神里委員】

- ・以前開催された外部評価委員会では、委員会参加者にペットボトルではなく、「缶」の飲物が用意され、事務局からも環境に配慮してそのようにしているとの説明があり、感動したのを覚えている。

【回答：山代学長】

- ・そのようなことからしっかりと考えていきたい。

【質問：越野委員長】

- ・管理栄養学科が2022年度で完成年度を迎え、どのような人材が輩出されるのか社会の関心も高いと思う。学科の現在の状況等教えてほしい。
- ・少子化が進み、入学者の獲得は重要な課題だが、大学ではどのような工夫等を行っているか。

【回答：山代学長】

- ・管理栄養士を養成する学部が沖縄に初めてできたこともあり、手探りで進んできたが、まずは、管理栄養士の国家試験に合格することが目標になる。今年は例年に比較し、試験の難易度が高かったと聞いているが、本学でも対策等の見直しを行わなければならない。
- ・管理栄養学科の就職率は学内で一番高く、社会から求められていることを実感している。

【回答：新城健康栄養学部長】

- ・国家試験対策は初めてのことで苦労した。73名が受験し、3月24日に合格発表。自己採点を行い、結果を待っている。管理栄養士が医療職ということもあり、管理栄養士の質の向上の観点から試験が難しくなっているようである。
- ・試験対策の講義と模擬テストについて、大学予算を活用するなどして実施した。
- ・国家試験対策室を設置し、グループで学習できる場を作った。

【回答：黒木副学長（国際コミュニケーション学科所属）】

- ・語学を学ぶことへの関心が高い学生が多い学科だが、コロナの影響により海外・国内留学ができないことで学生達はつらい思いをしており、学生募集への影響も気がかりな状況であった。
- ・様々な制限がある状況下でも、海外の大学の学生と本学学生がウェブ上でアバターを介して交流させるなど、魅力ある取り組みが生まれたが、そのようなことをアピールすることで大きな落ち込みもなく、学生募集ができたように思う。

【回答：嘉数教務部長（福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻所属）】

- ・大学全体では、シンガクマルシェなど、沖縄大学に関心を持ってもらう取り組みを展開している。
- ・オープンキャンパスでは、ミニ講義等を通じて各学科で学べることや魅力を伝えている。
- ・健康スポーツ福祉専攻では、入学前課題の一環として今年度初めて高校生を講義に参加させた。早めに大学の講義を体験してもらうことで、大学での学びのイメージを持ってもらうことが目的。このような取り組みを通して学生募集にもつなげたい。
- ・Facebook を保護者向け、Twitter を高校生向け、Instagram は写真をたくさん載せて幅広い世代に見てもらおうなど、専攻の取り組みを広く知ってもらおう取り組みも行っている。

【回答：名城研究科長（福祉文化学科社会福祉専攻所属）】

- ・この2～3年は75名の定員を満たしているが、それ以前は定員割れの状況が数年続いていた。この数年は入試広報室と協力して高校訪問に同行するなど学生募集を意識した取り組みを実施している。不景気になると福祉系学部の入学者が増えるという傾向があるが、コロナの影響により福祉方面への興味につながった可能性もあると考えている。
- ・SNSも活用しているが、大学教員の目線での情報発信となっており、高校生に魅力ある発信を行うという点において課題がある。

【回答：豊川経法商学部長（経法商学科所属）】

- ・経法商学科には、卒業後の目標が定まっておらず、幅広く学ぶ中で決めていく学生が多く入学する。公務員対策講座が受けられるところに魅力を感じている学生も多い。公務員合格者を増やしていくことに課題があるが、資格対策講座や4年間一貫ゼミを通して夢をみつけていく後押しを行っている。
- ・入試広報室が戦略的に高校訪問を行っており、教員も同行している。フットワークの軽い若手の教員も増えており、先日法律系、経済系の教員が宮古島の高校でミニ講義を実施するなどしている。

【回答：喜屋武人文学部長（こども文化学科所属）】

- ・出前講座やオープンキャンパスなどに入試広報室と取り組んでいる。小学校教員を目指す学生がほとんどだが、学校現場が教員不足で過酷な状態であることが社会問題化して応募者数減につながるなどの影響があり、学生募集には苦戦している。次年度以降、総合型選抜の導入を検討するなど対応を考えているところである。

【回答：山代学長（管理栄養学科所属）】

- ・離島の高校も含め、指定校特別推薦入試を今年度から導入した。入試広報室と連携して優秀な学生に志願してもらえよう取り組みを進めたい。

※意見交換の後、各委員より、3年間の任期を通しての感想等についてコメントがあった。

【神里委員】

- ・報告書を読んで、「地球市民・地域市民の共育の拠点」を実現していると感じた。履修相談室などを新たに設置して学生の支援を行うなど前進していることにも感銘を受けた。土曜教養講座をコロナ禍でも継続していることも「地域に開かれた大学」という実績を積み上げている。

【石原副委員長】

- ・仲地学長、盛口学長、山代学長とバトンがつながれる中で外部評価委員として関わってきたが、毎年、沖縄大学が実直に改善に取り組む姿に感銘を受けた。私自身、沖縄大学のファンになっており、進路が決まっていな人には沖縄大学を勧めている。
- ・沖縄大学に期待することは、那覇にあるシティキャンパスという特徴を生かしてほしいということ。町中にある大学がエコキャンパスへの取り組みを実践し、その成果を率先して地域に還元してほしい。沖縄大学だからこそできるエコへの取り組みには期待している。
- ・先輩経営者から「足元に宝はある。企画を練るときには足元を深く掘れ」と教えられた。素晴らしい大学となるように引き続き頑張っていたきたい。

【田島委員】

- ・真和志自治会長連絡協議会は、地域と学校、企業をつなげて老若男女が集い、学んで語って次世代につなげる役割を担っていると考えている。大学と共に取り組む課題もたくさんある。今後も引き続きよろしく願いたい。

【小磯委員】

- ・我々の業界では、どれだけ人と接して、ネットワークを作り、人間としての幅を広げてきたかが問われる。そのような人が飛躍しているように思う。学生には勉強や遊びを通して、いろいろなことを学んでほしい。
- ・新聞が基本。新聞の情報を自分の目で検証する力も大事。情報があふれる中、頭でっかちの若者や方向性が見えない若者が増えていることを実感している。新聞を読み、検証していくことの重要性について、学生に口酸っぱく伝えてほしい。

【三輪委員】

- ・改めて報告書を読んで、エコキャンパス宣言を策定した当時、新崎先生や桜井先生が「これからの時代に勉強することは平和と環境のことしかない」とおっしゃっていたことを思い出した。それが沖縄大学憲章にそのまま生きている。これが今の時代にマッチしているか心配にもなるが、これを守り通していくことに沖大の存在意義があるように感じる。今後も頑張っていたきたい。

【越野委員長】

- ・外部評価委員会での報告や自己点検評価書を通じて、沖縄大学の自己点検評価はシステム化されており、感銘を受けた。私が沖縄大学の外部評価委員をしていることもあってか、進学を検討している人から管理栄養学科の事を尋ねられる機会が何度かあったが、教育がしっかりしており、大丈夫だとお答えした。今後も地域の期待に応えて頑張っていたきたい。

6. 閉会挨拶（黒木副学長）

- ・本学では、大学が行う自己点検・評価の結果を公表し、大学の諸活動の改善を行うために外部評価委員会を開催してご意見をいただいている。
- ・昨年度、外部評価委員の皆様からいただいたご意見に対する対応策について学長より説明を行っ

たが、本日も貴重なご意見をいただき、本学に対する熱い想いを感じている。本日頂いたご意見をしっかりと受け止めて大学運営に生かしていきたい。今後も本学へのご支援を賜りたい。

以上

(記録：兼島)